

## 大洲市3月定例議会 その2

～日本共産党 梅木かづこの議会報告～

## 梅木かづこ市議の質問と答弁



## 3. 原発事故問題について

伊方原発3号機の再稼働の前提になるストレステストの1次評価について、経済産業原子力安全、保安院が四国電力が出した評価結果を妥当と判断する方針を固めたと報道されました。保安院は審査書をまとめ、原子力安全委の確認を経て、地元の理解状況を見極めながら野田首相が再稼働の是非を判断するといひます。

福島原発が地震でどれだけ損傷したのか未だ分かっていません。溶け落ちた核燃料の状況もわからず、未だに予断を許さない状況です。この原因を調査中なのに、ストレステストで安全性を確認したといひます。単に電源系統や冷却機能などが、どの程度地震、津波にたえられるかコンピュータ上でシミュレーションし評価したものです。こうした状況で再稼働を認めるべきでないと思ひますがどうですか。

## &lt;答弁&gt;

電力は欠かすことができない。自然エネルギーなどへの転嫁を進めつつ、当面、伊方と共存はやむをえないと考える。再稼働については、福島の事故を十分検証し、国が責任を持って、安全性を示し、万全の安全対策と、危機対策もと行われるべきと考える。

県主導で避難訓練が行われました。その成果を明らかにしてください。また、現に原発が存在するわけですから、住民の安全確保のため、安定ヨウ素剤の配備や避難ルート、大洲市として具体的備えの対応が早急に必要です、副市長の増員や担当課の強化など、具体的にほかの自治体では足を踏み出しています。本市でも防災計画の見直しと併せて、『具体的な取り組みを』とこれまで求めてきました。計画を明らかにしてください。

## &lt;答弁&gt;

国や県の防災計画見直しをふまえ、また、広域の避難訓練の課題も検証して、防災計画の見直しで実効性のあるものにしていきたい。津波ハザードマップ、被災者システムなど作成する。

原発事故による風評被害がでています。東日本だけではなく。市内でも椎茸生産者から、『灯油の価格高騰でただでさえ大変なのに、テレビなどで、椎茸の放射能汚染が報道された影響が、2,050円程度になっている。

手取りはさらに低い。風評被害で価格の低迷が起こっているのではないか』という声です。どのように把握していますか。

また、風評被害対策や価格保障、灯油に対する補助などの対策があると思ひますが、いかがですか。



## &lt;答弁&gt;

横浜の学校給食で椎茸に350ベクレルの放射能がでた。基準値以下だったが風評被害につながったと思われる。2,050円に落ち込んだが、1月30日には3,595円に回復した。価格補償は、県や国の制度がないと困難。地産地消の椎茸の消費拡大に取り組みたい。燃料費に対する価格補償は農機具など広範囲になり、適切でない。バイオマス活用推進計画で来年度バイオマス燃料を活用したボイラーの設置更新に対する支援も視野に入れて検討したい。

## 4. 高齢者福祉について

第5期介護保険計画で本市ではどのように変わるのか特徴を明らかにしてください。



## &lt;答弁&gt;

グループホーム36人分・小規模特別養護老人ホーム58人分・介護付き有料養護老人ホーム19人分の整備をはかる。

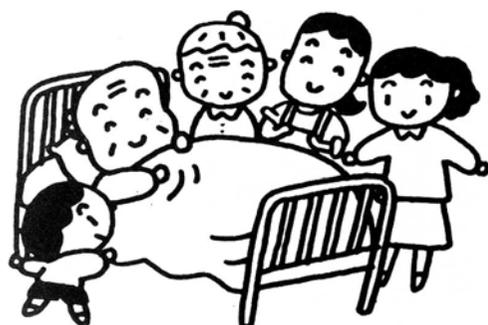
今回の法改正で、新しい「事業計画」に高齢者のニーズ調査を実施し、関係者を集めた日常生活圏域部会が開かれることになったといえます。実施結果の特徴をおききします。

**< 答弁 >**

平成 23 年 1 月、800 人に調査書を送り、661 人（82.6%）から回答があった。大洲市の高齢化率は 26.9%である。

圏域ごとの実情をふまえ、要介護状態になるおそれのある方に支援をしていきたい。

今回、介護保険料の引き上げ緩和措置をしても、基準月額で 4,524 円となり、第 6 段階の方は年額 81,500 円と 10,500 円も引き上げられました。2 億 5700 万円ある基金の 58%しか取り崩さない理由を明らかにしてください。国や県の安定化基金も高齢者の介護保険で積み増したものです。保険料の軽減に取り崩すように働きかけるおつもりはありませんか。



**< 答弁 >**

不足の事態に対応できるように、第 1 号保険者の 1 ヶ月の負担額に相当する 6000 万円を基金に残し、平成 23 年基金残額見込みの 71.2%を介護保険料に充当する。国県への要望は困難。

計画では、『高齢者にやさしい環境整備』として、公営住宅政策における長寿社会対策が書かれています。大変喜ばれる施策と思いますが、具体的構想をおきかせください。

**< 答弁 >**

大洲市にはバリアフリー済みの住宅が 12 団地 96 戸ある。うち 2 団地 8 戸を高齢者が優先して入れるようにしている。高齢者にやさしい住宅を供給できるようつとめていきたい。

また、交通災害が明記されていますが、交通弱者としての対応がありません。高齢者の足の確保は差し迫った問題です。これについてはどのようにお考えですか。

**< 答弁 >** 肱川では、健康行きバス。河辺では外出支援サービス。大洲では福祉バスを走らせている。

## 5. 後期高齢者医療制度について

75 才以上の高齢者が加入する後期高齢者医療制度の平均保険料は、53,840 円と報道されました。値上げ額は 4,627 円といえます。限度額も 50,000 円から 55,000 円になります。介護保険料が上がり、後期高齢者医療保険料がこれほど引き上げられ、さらに、もらう年金が引き下げられたのでは、保険料が払えず、医療にかかれない方々を生み出します。その上、消費税の増税では、暮らし破壊です。

日本共産党は、老人保健制度から後期高齢者医療制度に移行するときからこの制度の問題を指摘し、すぐにでも老人保険制度にとりあえず戻すように求めて来ました。愛媛県後期高齢者医療広域連合の議員の市長に、お聞きします。制度の見直しこそ必要を思うがどうですか。また、値上げが市民に与える問題についてどのようにお考えですか。財政安定化基金を取り崩し保険料抑制に使うべきと思いますがどうですか。



**< 答弁 >** 15%以上の上昇が見込まれた。財政安定化基金を活用して、平均 9.4%の上昇に抑えて。基金は平成 25 年には 23 億円になる見込み。このうち 18 億円を活用して、上昇を抑制する。新たな仕組みができるまで、国に財政支援をお願いしたい。

原発事故が起きたときの具体的避難については、国・県待ちの状況です。椎茸など生産している方々への支援こそ必要です。放射能汚染の風評被害対策は即対応できる状況が必要です。学校給食食材の汚染測定検査も実施すべきです。介護保険料は基金は取り崩しての対応をと求めました。基金の 71%は取り崩し対応し、引き上げ緩和にはなりました。道徳教育を叫びながら、高齢者が医療も介護も受けられない、そんな政治を変えましょう。（梅木かづこ市議談）

来週号に続きます。